

45歳の真理子へ

江角由利子

1999年12月26日、あの日から25年と言う歳月が流れました。

20歳だったあなたは45歳になっているはずですが、でも、想像ができません。どんな仕事をして、どんな人と結婚しているだろうね。あの日、警察から「江角真理子さんのお宅ですか？驚かないで下さい。真理子さんが交通事故に遭われて入院されました。鳥取県立中央病院に来て下さい」との電話がありました。聞いても様子を教えてもらえなかった。怪我だと思いました。でも、電話があった時刻には、もう、この世にいなかったのです。愚かにも迎えに行けなかった事を一生、後悔しています。

長く通った心療内科の隣にリサイクルショップがあります。太ってしまったので、大きい服を買おうと寄って見たら、ピンクのドレスが高い所にボディに着せて飾ってありました。一回は店を出たのですが、どうしてもあなたに着せてやれなかった後悔から、引き返して思わず買ってしまいました。真理子のウエディングドレス姿が見たかった。顔の無いボディにこれを着せて、オブジェの傍に置く。それは母の切ない想いです。笑うでしょうね。あなたは。

そして、あなたの赤ちゃんが見たかった。抱いているのは京都の従姉妹の赤ちゃん。あなたが大学2年生の時に抱っこさせてもらったよね。もう、朱(あけみ)ちゃんは社会人になったんだよ。そして、結婚して一昨年5月には赤ちゃんが生まれました。あなたは……今、どうしていますか？どこにいますか？あなたのお姉ちゃんは16年前、赤ちゃんを産んでお母さんになりました。そのお姉ちゃんに「母子手帳」と「へその緒」を渡しましたよ。孫は本当に可愛いです。あなたが生きていれば、命のバトンタッチが出来たのに……

あなたの子どもが見たかった、この手に抱きたかった。このウエディングドレスと、この写真は望みが叶えられなかった母の切ない思いの象徴です。どうか、この世の中でこんな想いをする人が居なくなりますように。

夕べ、智頭の事件現場に置いて来た花の鉢植えが枯れそうだから、智頭町の人にお水をやってもらうように頼んだら、夜にわざわざ行って下さいました。そしたら、蛍が一匹、飛んで来たそうです。あなただったのかな？不思議だね。

もう一度、会いたい！
母より



いとこの赤ちゃんを抱いて



ウエディングドレス